

### 会計上の見積りの開示と企業評価での活用 —財務上の変動リスクの把握とガバナンス評価への活用—

大 瀧 晃 栄 CMA

#### 目 次

- |                                   |                      |
|-----------------------------------|----------------------|
| 1. はじめに                           | 3. 適用初年度の状況          |
| 2. 会計上の見積りの開示に関する会計基準等と<br>KAMの概要 | 4. 企業評価における活用        |
|                                   | 5. 終わりに—今後の課題と期待にかえて |

注記事項における会計上の見積り等の開示と監査報告書のKAM（監査上の主要な検討事項）の適用は、投資家が待ち望んでいた改正である。会計上の見積り等の開示によって、財務情報に内在する変動リスクを企業価値評価に合理的に反映することが可能となり、またKAMと合わせて理解することで、ガバナンス評価にも活用することができる。適用初年度の状況を踏まえると、全体として物足りない印象もあるが、感応度分析の開示など好事例も散見された。それぞれの趣旨を踏まえ、記述が充実することを期待している。

#### 1. はじめに

21年3月期から適用となった「会計上の見積りの開示に関する会計基準」及び「会計方針の開示、会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」並びに監査上の主要な検討事項（Key Audit Matters、以下、KAM）の記載を含む新たな監査報告書の適用は、財務数値の質が変貌し、変動リスクが高まった財務数値に対応するための画期的な改正であり、投資家が待ち望んでいたことである。

上場会社が公表する財務数値は、2000年3月期以降の会計ビッグバンといわれる会計基準等の改正を機にその性質が大きく変貌した。会計ビッグバン以前は、単体決算を中心として、いわゆるトライアングル体制（商法、証券取引法及び法人税法）の下、取得原価主義に基づく測定がなされ、見積りに依拠した会計処理は引当金等に限定されていた。そうした会計基準に基づき作成された財務数値は、キャッシュの裏付けが強く、変動リスクの低い財務数値、言い換えれば硬い財務数値であった。



大瀧 晃栄（おおたき こうえい）

SMBC日興証券(株)株式調査部シニアアナリスト、公認会計士。1994年早稲田大学卒業。(株)野村総合研究所企業調査部及び大阪調査部、EY新日本有限責任監査法人監査部門及びアドバイザー部門を経て、2011年より現職。会計・制度調査担当。日本証券アナリスト協会企業会計研究会委員、金融庁企業会計審議会会計部会臨時委員、IFRS財団資本市場諮問委員会メンバー、財務会計基準機構基準諮問会議委員、及び企業会計基準委員会（ASBJ）の五つの専門委員会委員。